財産を書き写した布　～択捉島出身の山田 勇さん～

この白い布は、戦時中に配給で受け取った布に当時の通帳の金額や証券の番号を記したものです。お父さんの吉次郎さんがソ連人に財産を奪われないように、また、所有している財産を忘れないために書き記しておこうと思ったものだそうですが、吉次郎さんは高校・大学に行っていなかったため、読み書きが苦手でした。そこで強制移住で内保に集められたときに知り合った内保小学校の校長先生に書いてもらったそうです。

択捉島を離れるときにソ連兵に見つかり取り上げられることを心配し、お父さんは腰に巻いてこの布を持ち出したとのこと。

この白い布で財産が戻ることはありませんでした。ただお父さんが宝物のように大切にしていたことを、勇さんは知っていたため、お父さんが亡くなった際に遺品として引継ぎ、同じように大切にしてこられました。

その後、勇さんは皆さんの記憶にも残るようにという想いから、千島連盟に寄付されています。

［※山田勇さんについては、建築・旧千島電信回線（海底ケーブル）ハッタリ浜陸揚庫の頁で紹介しています］